

# アブセンティーズムと

# プレゼンティーズム

健康経営を進めるに当たって、従業員の健康関連コストは重要な要素の一つ。このうち、「アブセンティーズム(Absenteeism)」と「プレゼンティーズム(Presenteeism)」という2つの概念について、渡辺巖太郎氏に解説していただきました。



医学博士、学術修士、  
労働衛生コンサルタント  
株式会社健康教養デザイナーズ 代表

**渡辺 巖太郎**  
わたなべ げんたろう

1975年順天堂大学医学部卒業後、細胞遺伝学、内科学を専攻。1982年より大手銀行専属産業医として産業医学の理論と実践に関わる。2016年より現職。

アブセンティーズム（傷病欠勤）とは、病気により欠勤や休職をして業務につけない状態のことで、具体的な疾病対策や欠勤による労働損失の評価など、以前から多くの研究が蓄積されています。しかし2000年頃から、就業はしていても病気や健康問題を抱えているために生産性が上がらない状態が注目されるようになってきました。正確な定義は決まっていますが、このような状態をプレゼンティーズム（疾病就業）と呼び、産業保健の新しい課題となっています。

多くの病気で確認されました。しかし研究が進むにつれて、病気に限らず健康に関連したさまざまな状態が業務能力に関係していることが実証され、最近では睡眠、喫煙、飲酒などの生活習慣、健康診断の数値、心理的な姿勢なども視野に入ってきました。

プレゼンティーズムと労働損失の関係を説明するために、生産性の低下を評価する測定方法（主に質問項目と思い出し期間の設定から成立するもの）が開発されています。疾患ごとにさまざまな測定方法が存在し、信頼性と妥当性を検証しながら使用されています。大規模研究によれば、企業における健康関連の総費用（医療費・薬剤費・アブセンティーズム・プレゼンティーズム）のうち、プレゼンティーズムによる損失コストの占める割合が、

プレゼンティーズムは当初、頭痛、腰痛、胃腸障害、花粉症などの身近な疾病や慢性疾患、がん、精神疾患など

## プレゼンティーズムと労働損失の関係

多くの状況において最も高いことが示されています。プレゼンティーズム対策が急がれている理由はここにあります。

## 健康経営における重要なアウトカム指標

経済産業省は、個人の健康関連リスク（保健指導等の基準でリスク判定可能なもの）を「生物学的リスク」「生活習慣リスク」「心理的リスク」に分類し、リスク階層別に損失コストを示しました（図）。損失額はプレゼンティーズム、医療費、アブセンティーズムの順に高く、高リスク群は、低リスク群に対してコスト比1.4倍、30万円の損失額の増加が示されています。さらに、アブセンティーズムとプレゼンティーズムはワークエンゲ

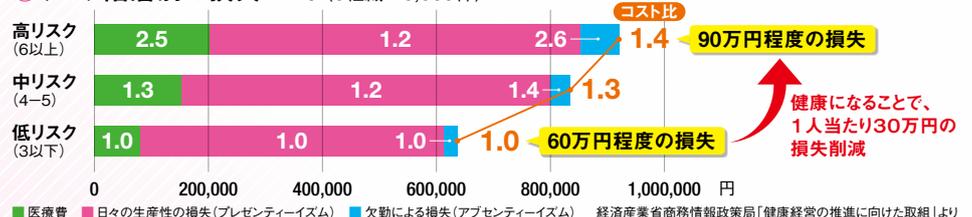
ージメントや従業員満足度とも関連することから、両者を健康経営の重要なアウトカム指標と位置付けました。プレゼンティーズムの研究が進む中、産業保健専門職は健康経営と歩調を合わせながら、この課題に取り組んでいくことが求められています。

### 健康関連リスクと階層別損失コスト

●健康関連リスク（保健指導等の基準でリスク判定）

- 1: 生物学的リスク ①血圧 ②血中脂質 ③肥満 ④血糖値 ⑤既往歴
- 2: 生活習慣リスク ①喫煙習慣 ②飲酒習慣 ③運動習慣 ④睡眠・休養
- 3: 心理的リスク ①主観的健康感 ②生活満足度 ③仕事満足度 ④ストレス

●リスク階層別の損失コスト（3組織 3,369件）



◇参考図書◇ 『プレゼンティーズム——その意義と研究のすすめ』(武藤孝司著、星和書店)